16値直交振幅変調	768×N－480	1536×N－480	3072×N－480
64値直交振幅変調	1152×N－720	2304×N－720	4608×N－720

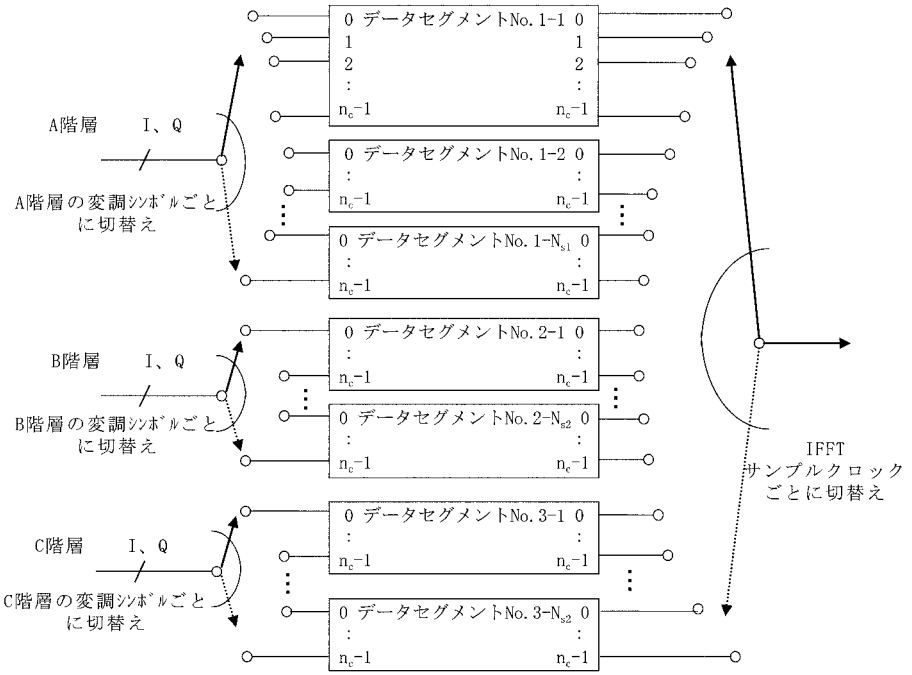
3　キャリア変調マッピングに際し、最大120ビットの遅延を入力側に挿入し、ビットインターリーブを行う。

4　位相図の点をZ（I＋jQ）としたとき、以下に示す変調レベルの規格化を行うことにより、送信信号レベルを正規化する。

キャリア変調マッピング	規格化
4分のπシフト差動4相位相変調	Z／$\sqrt{2}$
4相位相変調	Z／$\sqrt{2}$
16値直交振幅変調	Z／$\sqrt{10}$
64値直交振幅変調	Z／$\sqrt{42}$

別記2　階層合成

キャリア変調マッピング後に各階層のシンボルを合成し、速度変換を行った上で、データセグメントを送出する。



注1　n_cの値はモード1の場合は96、モード2の場合は192、モード3の場合は384とする。

2　地上基幹放送局を用いて行う超短波放送のうちデジタル放送については、1セグメント形式のＯＦＤＭフレームの場合はN_{s1}＝1、N_{s2}＝0及びN_{s3}＝0、3セグメント形式のＯＦＤＭフレームの場合はN_{s1}＝1、N_{s2}＝2及びN_{s3}＝0とし、地上基幹放送局を用いて行う標準テレビジョン放送のうちデジタル放送及び高精細度テレビジョン放送についてはN_{s1}＋N_{s2}＋N_{s3}＝13、セグメント連結伝送放送については、1セグメント形式のＯＦＤＭフレームの場合はN_{s1}＝1、N_{s2}＝0及びN_{s3}＝0、13セグメント形式のＯＦＤＭフレームの場合はN_{s1}＋N_{s2}＋N_{s3}＝13とする。

別表第十一号　ＴＭＣＣ信号の構成（第13条第1項関係）

ＴＭＣＣ信号の204ビットの符号割当ては、以下のとおりとする。

B_0	ＴＭＣＣシンボルのための復調基準信号
B_1～B_{16}	同期信号
B_{17}～B_{19}	セグメント形式識別
B_{20}～B_{121}	ＴＭＣＣ情報
B_{122}～B_{203}	パリティビット

注1　ＴＭＣＣシンボルのための復調基準信号は、別表第十九号に示すW_iと同一の値をとるものとする。

2　同期信号は、ｗ0＝0011010111101110又はｗ1＝1100101000010001とし、フレームごとにｗ0とｗ1を交互に送出するものとする。

3　セグメント形式識別は、差動変調の場合は111、同期変調の場合は000とする。

別表第十二号　地上基幹放送局を用いて行うデジタル放送の誤り訂正方式（第15条第2項、第13条第2項関係）

1　ＴＳパケットの誤り訂正外符号は、短縮化リードソロモン（204，188）とする。短縮化リードソロモン（204，188）符号は、リードソロモン（255，239）符号において、入力データバイトの前に51バイトの00hを付加し、符号化後に先頭51バイトを除去することによって生成する。ここでリードソロモン（255，239）符号の多項式は次のとおりとする。

符号化生成多項式：$g(x)=(x+\lambda^0)(x+\lambda^1)\cdots(x+\lambda^{15})$　　（λ＝02h）

体生成多項式：$p(x)=x^8+x^4+x^3+x^2+1$

注　数値の後のhは、その数値が16進数表記であることを示す。

2　ＴＭＣＣの誤り訂正符号は、差集合巡回符号（273，191）の短縮符号（184，102）とする。ここで差集合巡回符号（273，191）多項式は次のとおりとする。

符号化生成多項式：$g(x)=x^{82}+x^{77}+x^{76}+x^{71}+x^{67}+x^{66}+x^{56}+x^{52}+x^{48}+x^{40}+x^{36}+x^{34}+x^{24}+x^{22}+x^{18}+x^{10}+x^4+1$